

MM2Hってなに?

Malaysia My Second Home、略して「MM2H」は、10年間マレーシアに滞在できるソーシャルビジットパス(以下、MM2Hビザ)が取得できるマレーシア政府主導の長期滞在プログラムだ。資産、月収の面で一定の条件【表1】を満たせば、年齢、国籍、宗教問わず申請可能。50歳以上か50歳以下かで条件は多少異なるが、50歳以上の場合、35万リンギ(約980万円)以上の資産と、1万リンギ(約28万円)以上のマレーシア国外での月収があれば申請できる(年金も可)。また、MM2Hビザ取得時には、マレーシアの銀行に定期預金口座を開設し、15万リンギ(約420万円)を振り込む必要がある。これらの金額は平均的な日本人サラリーマンにとっては決して難しいものではないだろう。いったんビザを取得すれば、何度でも出入国可能で、延長もできる。

そもそも、マレーシアの長期滞在プログラムは、1996年に移民局主導でスタート。2002年に観光省が窓口となり、名称もMM2Hに変わった。観光省MM2Hセンター

表1 MM2H ビザ取得に必要な条件	
参考: JM マイセカンドホームコンサルタンシーパンフレット	
■申請時点	
50歳以上	35万リンギ(約980万円)の資産
50歳未満	50万リンギ(約1400万円)の資産
+	
月々の収入1万リンギ(約28万円。年金や給与など) ※資産、収入ともに夫婦で申請する場合は合算可能	
■承認後ビザ取得時	
50歳以上	15万リンギ(約420万円)の定期預金口座を開設
50歳未満	30万リンギ(約840万円)の定期預金口座を開設

※1円=RM28で計算

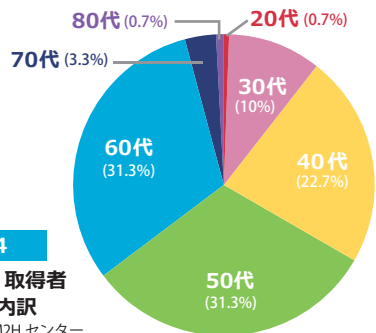


図4 MM2H取得者年代別内訳
出所: MM2Hセンター

多く、70代以降が4%【図4】。以前は「定年退職後移住」が主流だったことを考えると、30代40代の存在感が目立ってきているといえる。ちなみに、夫婦でのビザ取得がもっとも多く48%(727組)。

夫婦で移住するのは日本人くらい。中国など別の国は30~50代の層が厚く、60代以降は少ない。韓国、中国、中東の人は、こどもの教育のために来ている人も多く、こどもと母親はこちらにいて、父親は自分の事業のために往たり来たりというケースが多いようだ(MM2Hオフィス、ダイレクターのサルワディ氏)。

仕事はありますか?

ここで湧き上がっているのが、30代、40代の働き盛りが海外に移住して、どうやって生活しているの?

ここがメリット! MM2Hビザ

- +** 年金に所得税がかからない
日本とマレーシアは租税条約を締結しているため、マレーシアで年金を受け取る場合は無税。
- +** 車を1台免税で輸入、あるいは購入ができる
日本から関税なしで車1台を輸入できる。購入の場合は、ビザ取得後1年以内であればマレーシア組立の車種に限り免税購入可能。どちらの場合もマレーシアで登録後2年間は売却できない。また売却時には、その時の車両価格に対しての関税の支払いが必要となる。売却時の関税はマレーシアにて購入した車の方が日本から輸入した車より安い傾向にある。※裏技①もご参照ください
- +** 滞在義務がない
MM2Hビザを取得しても、マレーシアに滞在する必要はない。現役のうちに申請してMM2Hビザを取得しておけば、定年後、気が向いたときに移住することも可能。
- +** 親族の同行が可能
申請した代表者の配偶者、21歳以下の独身のこども、60歳以上の両親の同行が可能(配偶者の親の同行は不可)。※18歳以上のこどもが大学に入学するには、MM2Hビザではなく、学生ビザが必要。18歳以下はMM2Hオフィスから許可を得ればインター校など私立学校への入学が可能。



写真提供: Tourism Malaysia

という疑問だ。MM2Hビザではマレーシア国内では基本的に就労はできないからだ。「MM2Hは基本的に『旅行者』。長くマレーシアに滞在して生活や旅行を楽しむ、お金を使っていたらだのがMM2Hプログラム。だから観光省が運営している。働きたければ就労ビザなど別のビザを取得すべき」(サルワディ氏)。

つまり、十分な資産があるか、年金収入がある人以外は、マレーシア国外からの収入が必要だ。例外として、マレーシアで事業に投資して社長となり、年に一度の配当を受け取ることは可能だが、もちろん、マレーシア国内で得た収入は課税対象となる。「ダイレクターとして仕事の進捗をチェックするくらいはいいですが、セールスをする、客に会うなどアクティブに働くのはNG。移民局のスタッフがランドムにチェックしていて、問題があれば

必見! ロングステイヤーから聞いたお得な裏技

- ① 輸入した車を高く売ろう**
輸入した車は2年間は売却できない。また、売却する際は、輸入時に免除された関税を支払う必要がある。だが、日本よりも中古車相場が高いので、日本で売却するよりも高く売れる可能性が高い。特に、マレーシアで人気の車種を輸入しておけば高く売れるかも!?
- ② おすすめスマホアプリ**
NTTの「050plus」や、フュージョンコミュニケーションズの「SMARTalk」に申し込むと、050から始まる日本の電話番号が取得でき、日本-マレーシア間でも、日本国内にかけると同じ料金で通話ができる。「SMARTalk」なら月額基本料もかからない。仕事関係のやりとりで050の番号を使えば、取引相手はこちらが海外にいるとは思わないはず!
- ③ クレジットカードの海外医療保険**
一部のクレジットカードについてくる3か月間有効な海外医療保険には「自動付帯」と「利用付帯」の二種類がある。日本を出国した時点で有効になる「自動付帯」1枚と、クレジットカードを使って買い物をした時点で有効になる「利用付帯」のカードの二種類でやりくりすることも理論的には可能だ。ただ、医療機関側からはあまり歓迎されていない方法らしい…。

また、日本で立ち上げた会社を部下に任せてマレーシアに来てもらう方や、フリーランスのロングステイヤーもいる。日本での働き方がどんどん多様化しているが、それに伴って、マレーシアのロングステイヤーの年齢やライフスタイルも多様化しているといえる。

くマレーシア。そこで今回、MM2Hビザでマレーシアに滞在しているコツや節約術、医療や介護、投資など、いろんな面からMM2H

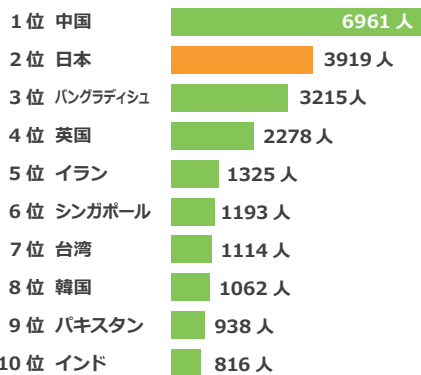
MM2H 最新事情

の統計によると、2002年から2016年1月までの14年間で、2万9427人がMM2Hビザを取得。うち日本人は3919人で、MM2Hビザ取得者が世界で二番目に多い国となっている。ちなみに、1位は6961人の中国【図2】。中国語と英語が通じ、イスラム教徒が多く、生活コストも比較的安いというマレーシアの特色が世界中の人をひきつけているといえるだろう。

マレーシアが一番人気の理由とは?

日本の「ロングステイ財団」が実施している海外ロングステイを希望する日本人を対象に

図2 MM2Hビザ取得者国別ランキング
期間: 2002年~2016年1月
出所: MM2Hセンター



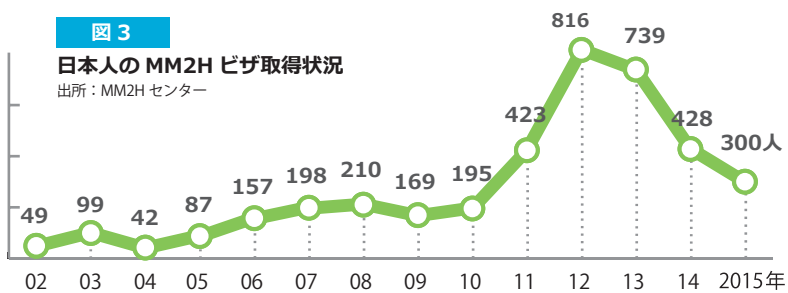
最近の傾向 30代、40代が増えている?

2002年以降の日本人のMM2Hビザ取得者数は【図3】の通り。2011年、2012年には中国を抜き1位となっている。これは2011年の東日本大震災、団塊の世代が本格的にリタイア生活に入ったことなども関連しているだろう。また、円安基調に加え、所得税、相続税などの増税、マイナンバー制度の開始などを見据えて、資産を海外に移そうという動きもあったようだ。

KL日本人会内にオフィスがあるMM2Hビザのエージェント、JMマイセカンドホーム・コンサルタンシーに最近の傾向を聞いた。「以前は日本人の申請者は年金での収入の場合が5万リンギでも申請が認められていたため、定年後年金生活に入ってから申請も可能ではあった。現在は、年金での収入でも給与等での収入でも1万リンギの証明ができないと、申請が認められないため、現役のうちに申請をする方が増えている。ここ数年は、30代後半から40代の方も増えてきており、全体の2~3割位を占めている印象がある。こどもの留学目的の方も増えている傾向にある」。

MM2Hセンターの統計(2013年~2016年4月)によると、MM2Hを取得する日本人は2012年の年間816人をピークに、ここ数年は減少傾向にある。2013年以降の3年半の合計は1516人だが、これを年齢別の割合にみると、30代以下は10.7%、40代が22.7%、50代が31.3%とそれぞれ31.3%と

図3 日本人のMM2Hビザ取得状況
出所: MM2Hセンター



MM2Hビザが取り消され、マレーシアに入国できなくなつたケースもある(「サルワディ氏」)。数年前にできたパートタイム制度もあるが、この制度を利用するには移民局の許可を得る必要がある。対象は50歳以上で、ローカル人材が見付からない場合のみに限られ、マレーシア政府の関連部署からの推薦状が必要など、ハードルが高く、これまで許可が下りたのは「20人にも満たない」という。

今回取材した日本人のなかには、オンラインントレーダー、日本でネットショップを経営、日本で所有する不動産から収入を得ているケースがみられた。

